ゼミの談話における引用と参照表現の機能

――「と」と「って」を使う表現を中心に

所属　S12（漢字表記）　学籍番号

一、はじめに

講義や談話をするとき、自分の意思を相手にはっきり伝えるため、あるいは相手を持ち資料の特定なところを注目させるため、発話者はよく引用、参照の表現方式を利用する。「引用の基本的な形式の特徴は、引用節と述語動詞が結びついて全体として一つの文を構成していること」（砂用 1989）。構造として、《引用内容+引用形式+述部動詞》三つの構成部分を備えているのは常である（渡辺 2010：169）。そして、引用形式として、よく使われているのは「と」と「って」だと思われている。

この二種の引用形式の機能が近いと思われるが、実際の場合では、「と」と「って」のいずれを用いたことによって、話のニュアンスが違うことがよく感じられる。日本語の中の微妙な差異を区別するのは日本語学習者にとってとても難しいことだと考えられる。この二種の引用形式の機能の区別を明白にすれば、日本語の勉強に役立てると予想できる。

本稿では、大学院のゼミの談話に出てくる「と」と「って」を使う引用と参照表現を比較する。「と」と「って」という二つの表現形式がそれぞれどんな機能があるのかを明らかにするのがこの論文の目的ことである。

二、先行研究と本研究の位置づけ

参照、言及表現における引用形式については，これまでいくかの観点から先行研究がなされてきている。

浜辺(2010)は講義という場面での、講義者がどのような表現を用いて教材、教具に受講者を注目させ、どのようにそれらの内容を伝えているのかについて詳しく記録し、分析した。結論の一つとして、引用内容によって、発話者が使う引用形式が違っていると述べた。

佐藤（2011）野村（1999）は話し言葉の中の「って」の使い方と分析し、その機能をまとめた。

そして石黒（2015）は大学講義のなか、「と」で終わる文の文末の頻度を調査し、その機能を分析、考察した。

しかし、先行研究は「って」と「と」を分けて分析したことが多く、しかも

研究の対象として講義の談話を利用する場合が多い。だが、講義は講義者一方的の発話に対し、ゼミは多人数の談話であるから、談話の中に出てくる引用形式もよりバリエーションに富むと考えられる。ということで、私は大学院のゼミの談話を対象に、「と」と「って」を使う引用と参照表現の比較研究を行いた行うことにしたい。

三、研究の資料と分析の方法

研究の資料は、2015 年 9 月に、神奈川県の三浦半島のホテルで行われた都内の大学院の某ゼミナールの 40 分程度の談話の二つを文字化したものである。

一つは、『(研究発表タイトル)』というテーマをつけ、絵本が外国語の学習の中どれほど役に立てるのかを討論した談話である。発表者を含め、参加者は 8 名で、それぞれ発表者が配ったレジュメを参照しながら、コメントした。、

もうひとつは、『(研究発表タイトル)』というテーマで、発表者を含め 5 人の談話だ。前の資料と同じ、談話の参加者はレジュメを参照していながら談話を続けていた。

そして、その文字化データから、引用の接続形式と発話者の態度には関連性があるの観点からデータを抽出し、分析を行った。

四、分析の結果

データからみれば、同じ発話者であって、しかも同じ内容を引用するとしても、その引用内容の後ろに接続する引用助詞と述部動詞は場合によって必ずしも同じではない。

データの中から引用と参照表現のあるところを抽出すると、引用の接続形式は大体以下のように分類できる。

１、引用内容＋って＋述部動詞＋けど/けれども/が

２、引用内容＋って＋述部動詞＋では（じゃ）ないか/です（だ）よね

３、引用内容＋って

４、引用内容＋と＋述部動詞＋けど/けれども/が

５、引用内容＋と＋述部動詞＋では（じゃ）ないか/です（だ）よね

この五種類が談話の中それぞれ出た頻度から見ると、そして談話全体の文脈によれば、発話者が引用内容を賛成する場合、または引用内容の正確さを強調しようとするとき、『と』の使い頻度はより高いと推測できる。

その代わり、引用内容について疑問がある、全般的に賛成できず、もしくは反対し、軽視するとき、『って』の使い頻度がより高い。

参考文献

石黒圭（2015)「大学講義の文末表現の機能―引用助『と』で終わる文を例に」『一橋大学国際教育センター紀要』 6 17-29
野村真一（1999)「『S ッテ』文の分析 ： 引用標識『ッテ』を用いたストラテジー」 『金沢大学語学・文学研究』 27 44-34
佐藤雄一(2011) 「引用形式『って』における主題提示用法」『共立国際研究 ： 共立女子大学国際学部紀要 = The Kyoritsu journal of international studies 』28 1-20
渡辺文生（2010)「第９章　講義の談話の引用と参照」佐久間まゆみ編（2010)『講義の談話の表現と理解』くろしお出版　169-186